

悪水豫防組合が

早晚解散か

新川改修完成し

縣費支辨川に編入されて

平町外内郷、飯野二ヶ村惡水豫防組合では管理中の新川が改修完成と共に縣費支辨川に編入された爲め自然組合は解消する事になったので本月下旬半町役場會議室に總會を開き組合解散の件に就いて協議すると

平商寒稽古納會、平商業學業武道部では既報の如く明日午前十時より同校道場にて寒稽古納會を開催午前中は部員一同の紅白試合午後よりは警中武道部と對戦すると

計畫を校長に一任

第二校の『御降誕』記念事業

平第二小學校では昨日午後二時より皇太子殿下御降誕記念事業に就いて職員會を開き種々協議の結果校長一任となつたので校長は近く左の内より一種乃至二種目を選ぶと

- 一、願書は縣教育課に提出する事
- 二、願書履歷書は必ず半紙野紙とし横線を引く事を忘るべからず
- 三、身体検査書は尋常受

白井博之氏

遂に永眠す

遺骨となつて

明日小川に歸る

昨報一突然急變を傳へられた元代議士白井博之氏は東京大森の自邸に於て主治醫の佐多博士、村松ドクトル及び

急電に 接し駆せ付け

た平町市原醫師、石山博士諸氏の診療を受け近親者の

驗者のみ添付すべし
四、寫眞は他府縣受験者のみ差出すべし寫眞は臺紙付とし裏面に受験地受験資格氏名を記載すべし
五、二種類例へば小本生と農專正を併せ出願を許さず
六、一旦差出したる上は如何なる理由あるも一切返戻せず尙受験地の變更を許さず
七、他府縣より授與される佳良證明書を所持する者はその證明書を添付すべし若し添付せざる時はその科目の免除をなさず
八、色盲ある者は合格せしめざるに付し願前醫師の嚴密なる検査を受け出願すべし學科に合格した後本縣醫師の検査に發見され不合格となりし者多數ありたり

曆正月も間近なので夫れが終つてから舊十六日頃になる模様である
同氏は人も知る故白井遠平氏の長子、警城銀行頭取、農工銀行頭取として地方財界の爲めに甚大な功績を殘し且つ政友會の大御所として一時は飛鳥も落す聲望を擔ひ選まれて代議士に當選したる事二回、此間地方開發の爲め礎石の力として重大な

役割を 演じたは枚

擧げ暇がない、不幸警銀が財界動搖の影響を受けて閉鎖し遂に破産を宣告されるや氏、華々しい生涯も終焉を告げたかの觀あり其後小川村に塾居し世俗との一切の交渉を斷つてひたすら謹慎の意を表して居たが遂に中風症に冒され一時

小康を得たも療養

及ばず今回の計に接するに至つたものにて恵みの晩年を各方面より痛く同情されて居る、尙ほ生前親交厚かつた金成貴族院議員、暗然として語る

實に惜しい事をした、生

前にも一度一華咲かしてやり度いと思つたが及ばなかつた、白井氏は緻密な性格の人で自分等も大いに教へられる處があつたが今は既に無し、淋しい晩年だけに心残りが多い、熱海へ湯治に行つたのが悪かつたらしい、醫師から絶對安静を宣告されて居たのに……一體アノ病氣は氣の揉める病な

野菜の新販路

寒氣で品薄の地へ

神谷草野が出荷

宮城岩手兩縣下は寒氣の爲めに野菜大拂底を告げて居るので此處、眼をつけた神谷、草野兩村農會は互ひに協力し去月より一週一回の割で農作のネギを出荷開始

郡農會の賦課金

各町村の割當額決定

既報一石城郡農會では去る四日前午十時より團體事務所樓上に總會を開き協議の結果本年度各町村農會賦課金合計七千七百三十圓を左記割當に決定したが賦課總額は昨年度と同額であると泉三〇一、渡邊二〇九、植田二八八、山田二五八、錦三一一、勿來二九八、上遠野一五七、入遠野一八九、川部一九三、田内一四九、湯本一一八、内郷一九四、好間二四三、赤井二四二、永戸二〇五、三坂二二二、神谷二五六、平一四一、飯野三三〇、夏井二四八、高久二五、豊間二二二、江名一三七、鹿島一三〇、小名濱一一四、玉川三二二、警崎三三三、草野三七〇、大浪

九面隧道検査 勿來

町九面トンネル及び川部山田等の匡救工事はいづれも既報 如く竣工したので明九日縣土木課の大野技手が竣功検査を行ふと

常設館たより

平館 日活現代劇 中野英治 入江たか子 濱口富士子主演『魔大地』會

日活時代劇 片岡千恵藏主演『源氏小僧出現』
世界館 松竹ニユース松竹時代劇 阪東好太郎飯塚敏子主演『忠治と美代太郎』松竹現代劇 岡譲二 田中絹代主演『非常線の女』新興時代劇 阪東扇太郎 淡路千夜子主演『くらやみ河岸』

平岡 人事

△胡澤澤二三大河原豊氏次男伸介

新學年の御用意

ランドセル (三十種) 小學生用
手提カバン (三十種) 女學生用
マルトモ柴田書店
電話 二五三九

美味で!

イワキ サロン
評判の……
電 352

野鼠に襲はれて

炭焼爺非業の死

見るも恐ろしい形相

脳溢血で倒れた所を

入遠野村宇中妻居住炭焼爺木市松(六)は去る四日炭焼きに行くと稱し家を出た儘歸宅しないので昨六日家人が附近農家の者と捜査した處同村宇中妻居住炭焼爺小屋の中に顔面惨々に咬食を負ひ見るも恐ろしい形相で絶命して居るのを発見したが其の筋で検視の結果同人は先頃から輕微な腦溢血にかゝつて居た處より見て作業中病症を起して昏倒した處を嚴寒に食を失つて居た野

鼠に襲はれ咬食されたものと鑑定さる

になり目下各商店の求めに應じてゐるが申込多數に上り不足を告げる模様であるから希望者は早く申込まされたいと

好間青訓へ

機關銃寄贈

古河炭礦から

好間村青年訓練所では此程古河炭礦より輕機關銃一臺の寄附をうけたので来る十日同村國防義會發會式當日在郷軍人會及び青年訓練所聯合演習に於て使用する事になつた

平町 笠松二等兵

馬賊に撃る

夜間演習で

歩哨勤務中にこの奇禍

平町舊城跡居住元平營林署員笠松幸男(三)君は昨年十一月朝鮮羅南歩兵七十三聯隊に在營中にして去月廿四日國境附近に於ける夜間演習に歩哨勤務中襲來した馬賊の爲めに脚部を撃たれ重傷を負ひ同地衛戍病院に收容された

紀元節式典

平町第一第二兩小學校では来る十一日午前九時(尋四

初賣りに

平商生實習

平商業學校では例年の如く今年も舊正月二日の吉例大賣出しに實習の爲め生徒を市内各商店に手傳はせる事

大國旗懸る

磐女の樹立式

磐女の樹立式

磐女では豫てよりの懸案であつた大國旗及び旗桿が此程出来上つたので今後祝祭日に當り玄關前に掲揚する事になつたが樹立式は来る十一日紀元節に舉行すると

同僚の

自轉車窃取

栃木縣真岡町生(掛掛職)鈴木五郎(九)假名は一月中小(同職の内郷村字綴門馬治郎(三)と共に都内各地で商

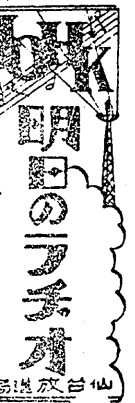
好況の古河炭礦

全従業員に増給

本月一日より實施

好間村古河炭礦では軍需品工場の場合から石炭の需要益々旺盛を極め送炭に追はれる始末で従業員に追いつく減じ極力採炭能率の増進を

計つて居るが更に本月一日より男女従業員四百七十名に對して男は五錢、女は三錢の各給料値上を行つたので従業員は大喜びであると



明日の予報
九日
報豫天
の風候
今晩も明日北西

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間)少年映畫物語「寶島」谷太郎 伴奏指揮 萩原辰也
後六、二五 英語講座(二)の(三) 兼弘正雄 演
後七、三〇 講 演
後八、〇〇 漫談風景(二)「お嬢様御發展」瀧理子

其他出演者
後八、三〇 掛合義太夫「櫻の浦兜軍記」竹本鏡太夫外大勢
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
明日
前七、〇〇 基礎英語講座(十五)岡倉山二郎

前九、一〇 料理献立「くわの蒲焼」小野
前〇、三〇 家庭講座「花の盆栽を早く咲かせよ」石川保太郎
後〇、五〇 アソコデー オンパンドアソコデー
後一、〇〇 アソコデー オンパンドアソコデー
後一、三〇 石山家美代吉 節外ハッ 婦人講座「福澤先生と婦人問題」石河幹明
後一、五〇 受驗講座「和文英譯」岡田實徳
後二、〇〇 子供時間

訓盲院へ寄附

中村具瞻氏は過般逝去された岳父玄躬氏の遺志により七日磐城訓盲院に金一圓を寄附した

川角分團長留任 平町長橋青年分團長川角豊太郎

流浪の按摩夫婦

△……感冒で共に臥床し
△……其日の食に差支ふ

北海道空知郡瀧川町生れ按摩小林金太郎(三)同妻カネ(三)の兩名は去る六日より平町長橋町木賃宿小島屋に宿泊し按摩業を稼いで居たが兩名共悪性の風邪にかゝり稼業に出られないので其日の食にも差支へ本日町役場に救済方を願出た

裁判所だより

△内郷村大字小島字新町無職鹽出清美(三)が平町立町河田鐵工場廣場材木町吉野鐵工場、立町山田鐵工場等より鑄物専門に合計百餘圓を窃盜した事件の公判は昨

平職業紹介所報告

△女工 三十迄 尋卒 給
△給仕 十五才 尋卒 日給三十錢
△兒守 十三前後 尋卒 月三四圓
△電工見習 二十迄 高卒

童話「名犬バルト」莊司義孝
後六、二五 ことばの講座(第八講)「濁音の話」神保格
後七、三〇 講演「日本國家哲學の特徵」藤澤親雄
後八、〇〇 漫談「風景豆理君と脱毛劑」近藤伊與吉その他
後八、三〇 小唄堤になびく外七ツ唄田村てる藤三味線田村てる香
後八、五〇 獨唱と管絃樂新響練習所より中繼||獨唱原信子||日本放送交響樂團

給料面談

△事務員 二十才 中五在學 給料面談
△雜役 十七才 高二中途 給料面談
△木工職 二十三才 高卒 給料面談
△店員 二十七才 佑賢卒 給料面談
△土工夫 四十六才 尋卒 給料面談

御用印刷物の總代理
常磐毎日印刷株式會社
電話三六〇番

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬琴演
山本英春書
徳川家に崇る村正

第五百十三回

身延へ参詣の旅

き「その新藏さんに逢ひました夢は一度ではございませぬ、二三度見ましてございませぬから、それでお父さんにお願ひ申して私は一層甲州の身延山へ参詣致しましたら方が一新藏様に逢ふ事もあらうかと存じます」

新「成程それでは行つて来るが、夢には五通ある靈夢神夢などといつて、お前が今話したしたのは大方實夢かも知れない、どうも私も此の間から考へてゐるのに、眞逆家を出して身を投げて死ぬといふ新藏でもなからう、甲州の身延にでもゐるか、とにかくそれ程迄思ひ込んだものだから早速参詣ながら行きなさい」

すると傍に居た金次郎が金「お父さんそれに就きまして、私も此の二三日見さんの夢を見ましたが、いつもいつも山道でございませぬ金次郎身体を大切にしろよお父さんを大切にしておくと、仰言しやいます、承知しました見さん、あなたこそそれ程御心配なら信州小諸へお歸りなすつては如何で御座居ます」と申しませぬ、返事もございませぬ、



イ私も大きな聲を出しまして、見さんどうなすつたのございませぬといふ聲に眼が覺めた事も二、三度ございませぬ、今嫂さんの仰言しやるのは甲州の身延山へ参詣をなすつて見さんをお尋ねなさるとの事、丁度私も

きく等は伴の所へ来てまだ世間見ず参詣と云ふ事にして一度は江戸見物もするが宜い、將軍様の御膝元八百八町と云はれると云ふ位大層繁昌な處だから、その繁昌な所へ行つたら万々一新藏に逢へるかも知れない、それに就いて若い同志二人ではやれませぬよ」

金「お父さん、それは勿論のこと、嫂さんも若いし私もまだ年若でございませぬから、兩人で行けと仰言しやいませぬ、参りも致しません、チャンと供を連れまして」

新「ウム」

居りまする二子山角太夫、越見湯大六の相撲取り二人を連れて参ります」

新「ア、二子山に越見湯、あれはまあ江戸で三段目迄取つたが、相撲をやめて今は家の飼殺し、用心棒同様にしてゐる二人と」

金「それから下女供の物六七人で参りましたら」

新「それなら宜しい、相撲取り二人も附いて居れば道中別段に心配もあるまいから私も大きに安心をする、おまさを置いて行くが宜い乳母も居るのだから」

金「どうかさういふ事に願ひ度う存じます」

き「お父さんおまさを連れて行きたうございませぬが子供の事故、それではどうかさう云ふ事に」

新「ア、宜いお前が甲州へ行くのに孫まで連れて行かれると私が淋しい、ともあれ先づ其の二子山越見湯二人を呼ぶが宜い」

金「長まりましたか」

と早速その二人の相撲取りを呼びにやる、信濃屋新兵衛信州で七福神の内、數へます大家、されば昨年から相撲をやめて信濃屋の厄介物、角太夫、大六の一人隠居の前に手をつきまして角「エ、御隠居様、何か御用でございませぬか」

新「いや外ではないが今度伴や嫁が江戸見物から甲州身延へ参詣へ行くに就いては、道中筋万串氣を付けて貰ひたい、お前方は旅から旅を歩いて馴れてゐるし殊にその大きな身体で長い刀

を差して歩けば、胡麻の灰も出ないだらうと思ふ、万端よろしく頼みたいものだから、其の代り歸つて来れば二人とも相當の禮をするから」

角「長まりましたございませぬ、それぢや若旦那と、新造さんの御新造さんが今度身延山から江戸見物に行かつしやる私共二人が付いて行けば大事ございませぬ、親船に乗つて陸の犬の遠吠を聞くと思召して下さい、御案内を致して参りますか」

新「それで私も安心したそれから金次郎、若者は」

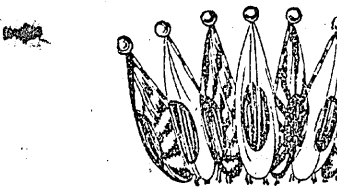
金「和吉に芳藏を連れて参ります」

新「それに下女を一人連れて行かないと、おさくが手廻りの事にも困るだらう」

市原醫院

平町 田町
電話一四四番

天壤無窮 萬歳萬々歳 瑞光燦として輝く
皇太子殿下御誕生奉祝を一月の吉日を撰れ行はせらるこの佳き日の御使用の提灯



祝奉

皇太子殿下御誕生

ケ提軒

スガノヤ提灯店

平四丁目 電九五

各種提灯は

行列用

各種提灯は

初賣の景品御準備

本年は漆器の他、小雜貨類も取揃へ御便宜を計り極力奉仕勉強致します故是非本年も御愛顧御引立を御願ひ致します。

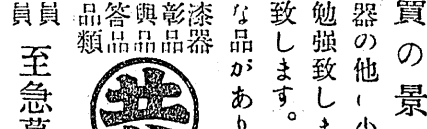
必ず格好な品がありますから御照會下さいませ。

各産産漆器
記念表彰品
恩賜賞品
進物贈答品
景品賞品類

共榮漆器店
平町三丁目北裏通り

外交員 至急募集
小店員

舊正



共榮漆器店

平町古銀治町一〇

阿康藥舖

縣社ノ下 電話四四番

米國製剝皮膚病良藥

レメドール

ヒビ、シモヤケ、ハタケヤケド、キリキズ、タム

子宮あたゝめぐすり

宮温湯

子宮病、根切藥、下腹や腰の痛みをなほす事妙なり

丹波博士創製セキドメ

たんばあめ

うまくてセキがヨクトマル

靈藥ムテキ

ユビハレ、ヤケド、キリキズ、淋病、梅毒、乳ハレ、すべて化膿したものを切らずに癒る